調査レポート

令和５年12月期景気見通し調査

～景況感は小幅ながら改善するも、物価高などの影響もあり先行きは予断を許さず～

調査概要

○調査時期
令和５年11月28日(月)～12月15日(金)
○調査方法　ＦＡＸ・Ｇｏｏｇｌｅフォームからの回答受付
○調査対象　会員小規模事業所２０４９件
○回答数　４３５件（回答率21・３％）

（Ｄｉ値とは…）
ディフュージョン・インデックス（Ｄｉｆｆｕｓｉｏｎ Ｉｎｄｅｘ）の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇した」とする割合から「悪い」「下落した」とする割合を差し引いたもの。

業界・自社の景況

業界の景況は、現在Ｄｉ値が▲34・7と前回調査時（令和５年９月期）から1・3ポイントと小幅ながら改善し、５期連続でコロナ前（令和元年12月）の水準を上回った。一方、先行Ｄｉ値は、▲42・5と悪化する見通しで、物価高など先行きの不確実性に対する懸念も窺われた。（グラフ１）。

自社の景況は、現在Ｄｉ値が▲27・4と1・0ポイント下落し、前回まで６期連続で改善していたが、悪化に転じた。また、先行Ｄｉ値は▲35・5と悪化の見通しとなった（グラフ１）。

仕入価格

仕入価格の現在Ｄｉ値は、▲65・4（＋6・3ポイント）と３期連続で改善（仕入価格が下降）し、大幅な改善には至らないものの価格は頭打ちしたとも考えられた。尚、先行Ｄｉ値は▲65・5とわずかに悪化する見通しとなった。（グラフ２）。

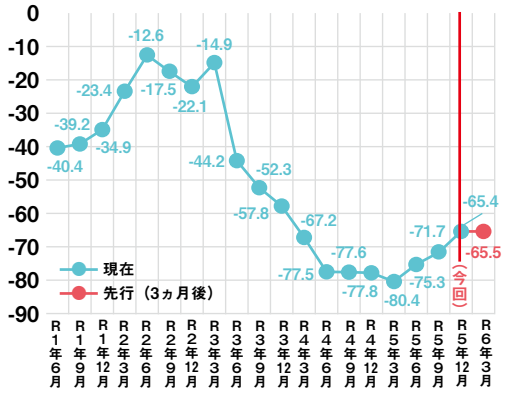
採算（収支）

採算（収支）の現在Ｄｉ値は、▲38・7（－2・1ポイント）と円安進行によるコスト上昇、賃上げなども影響し、３期ぶりに悪化した。また、先行Ｄｉ値は▲44・3と悪化の見通しとなった。（グラフ３）。

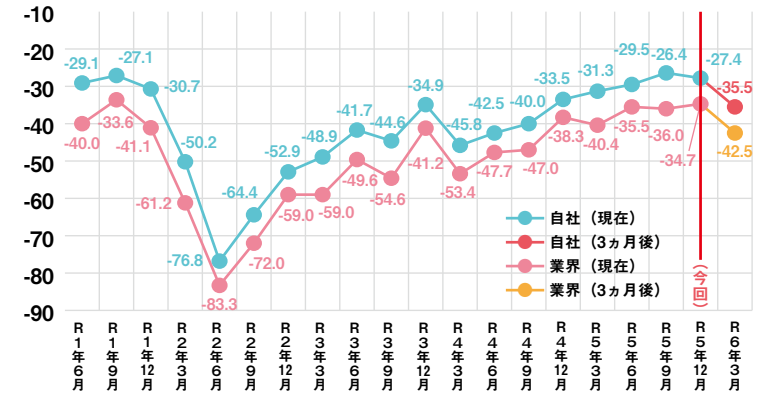
業　種	前回調査との比較					
	業界の景況	自社の景況	売　上　高	販売価格	仕入価格	採　　算
全業種	↗	↘	↘	↘	↗	↘
製造業	↗	↘	↘	↘	↗	↗
建設業	↗	↗	↗	↘	↗	↘
小売業	↘	↘	↘	↘	↘	↘
卸売業	↘	↘	↘	↘	↗	↘
サービス業	↗	↗	↘	↗	↗	↗

※青の矢印は改善を、赤の矢印は悪化を、白の矢印は維持を表している。

グラフ2 仕入価格



グラフ1 業界・自社の景況



経営上の課題

経営の課題（内的要因）では、「人材確保・育成」を挙げる回答が44・0％と5期連続で最多となり、次に「受注・販売量不足」が38・8％と多く、「価格の適正化」が31・4％と続いた。尚、今回の調査から追加した項目の「インボイス制度開始による事務負担増」を経営上の課題として挙げる回答は20・5％となった。（グラフ4）。

特別調査①「コスト上昇に対する価格転嫁などの現状」

物価高の状況が続く中、自社の商品やサービスにおいて、コスト上昇分を販売価格にどの程度価格転嫁できているか尋ねたところ、「少しはできている（転嫁の割合が1割未満から3割未満）」が43・3％となり、「それなりにできている（転嫁の割合が3割以上）」は36・7％にとどまり、依然として低い水準となった。また、コスト上昇分に対する販売価格への転嫁度合いを示す価格転嫁率※は30・7％で、これはコストが100円上昇した場合に30・7円しか販売価格に転嫁できていないことを示しており、コスト上昇分のおよそ7割を事業所が負担している現状が明らかとなった。

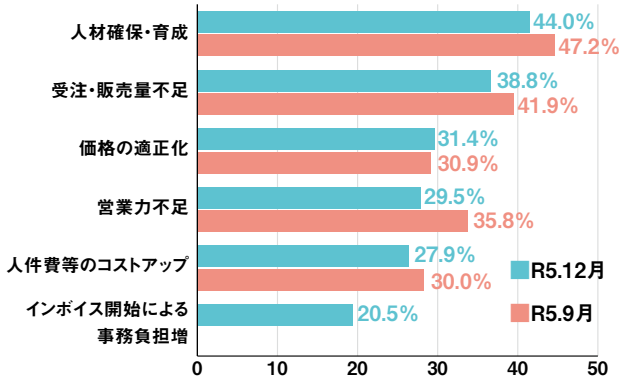
※価格転嫁率…各選択肢の中央値に各回答者数を乗じ、加算したものを全回答者数で除したもの（「全くできていない」は除く）

特別調査②「インボイス制度の対応状況」

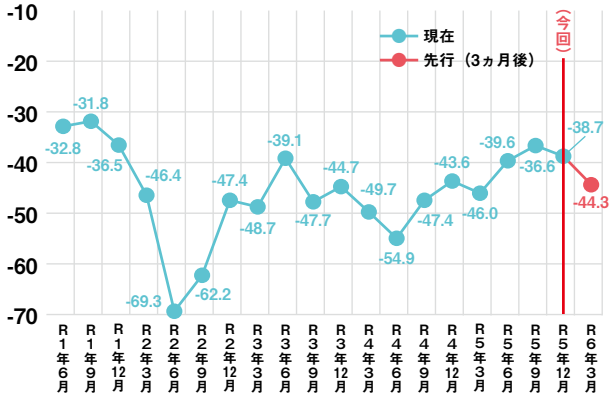
昨年10月から開始されたインボイス制度（適格請求書等保存方式）について、インボイス発行事業者の登録状況を尋ねたところ、「登録済み」が94・5％に達し、約1年前の調査で「登録済み」が31・4％だったことと比べると、制度開始までに登録が非常に進んだことがわかった。また、自社のインボイス制度の対応状況については、「順調である」が71・6％と最も多く、順調にスタートを切っている事業所が多い結果となった。

尚、インボイス制度が開始されてからの課題は、「経理業務の負担増加」が68・3％で最多となり、請求書や領収書の記載内容や消費税額の確認、インボイス発行事業者の登録をしていない取引先からの仕入にかかる経過措置の処理など経理業務の負担が増加していることが浮き彫りとなった。（グラフ5）。

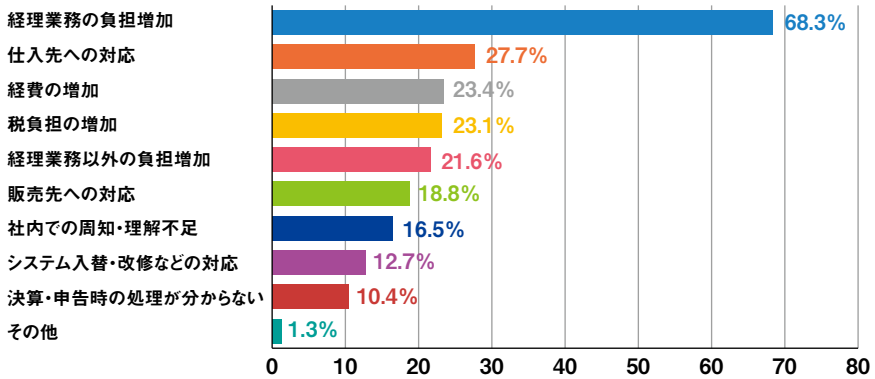
グラフ4 経営上の課題（内的要因）



グラフ3 採算（収支）



グラフ5 インボイス制度における課題



お問合せ

福井商工会議所
金融・会計相談課

0776-33-8284

詳しくはコチラ▶